

六所神社：農村舞台

1872 年に建てられた六所神社の茅葺き屋根の舞台は、1800 年代から 1900 年代初頭にかけて中部地方で盛んになった民俗芸能の文化を色濃く残している。舞台は、信仰の場でありながら社交の場でもあった神社に設置され、村人たちは舞台の前に集まって農村歌舞伎などを鑑賞した。芸能は主に村人自身が演じるものであるが、旅役者が演じることもあった。現在の愛知県、岐阜県、長野県南部の地域には、特に村の舞台が多く、豊田市だけでも 84 の舞台が残っている。

六所神社の舞台は、この種のものとしては最大級の規模と保存状態の良さを誇っている。天井の下には台があり、役者の昇降装置の一部として使われていた。また、建物正面の太さ約 80cm、長さ 11m を超える大梁など、構造的にも大変な労力と費用をかけて作られたことがわかり、かつてこの地域で民俗芸能が絶大な人気を誇っていたことを物語っている。しかしその人気は、映画が芝居や寄席を凌駕するようになると衰退していった。六所神社の舞台は、1948 年に使われたのを最後に、沈黙を守っている。